

大村市工業用水道事業の紹介

○事業の趣旨

大村市は長崎県の中央に位置し、世界初の海上空港である長崎空港や九州横断自動車道大村ICなど、交通アクセスに恵まれた都市である。この地勢を生かして昭和59年、「大村ハイテクパーク」が造成され、コマツ電子金属(株) (現SUMCO TECHXIV) の進出を契機にハイテク企業の集積が進んでいる。

本事業は、これらハイテク企業への工業用水供給と高度技術集積地を目指した長崎県の中核的都市づくりを目的として実施している。

○事業の経緯

大村市の工業用水道事業は平成2年4月、「大村ハイテクパーク」に進出する企業への供給を目的として5,000m³/日での一部給水を開始した。その後、平成14年3月、9,200m³/日で全部給水を開始した。平成20年1月1日からは、受水企業からの増量要望に応える形で、新規水源開発等拡張工事を実施し、3,000m³/日増の12,200m³/日での給水を行っているところである。

経営面においては、平成2年度の事業開始以来赤字決算が続いており、この状況を改善すべく平成15年度に基本料金30円/m³を35円/m³へ改定を行った。また、前述の新規拡張に併せて料金改定を実施し、平成20年4月1日から基本料金35円/m³から45円/m³へ10円/m³の料金値上げを行ったところである。

今後、施設老朽化の進行に伴い、改修工事が見込まれるところであり、経営状況は厳しい局面へ推移するものと予測しているが、本事業は大村市の産業基盤として重要な役割を担っていることから、中・長期的な経営健全化計画の下、更なる経費削減等を図りこれまで以上に安定的・効率的な事業運営と健全な事業経営に努めるものである。

○工業用水道施設の概要

本市の工業用水道水源は、2つの水系から配水池に送水している。坂口水系は、表流水2箇所(2,900 m³/日)と地下水源6箇所(7,500m³/日) 大多武水系は、地下水源4箇所(2,960m³/日)で、現在の給水能力は

○ユーザーの概要

(平成20年11月現在)

業 種	給水件数	契約水量 (m ³ /日)
電子	1	50
その他電子	2	12,150
合計	3	12,200

13,360m³/日である。

坂口水系は、各水源から池田送水ポンプ場に集められ、坂口送水ポンプ場を経て雄ヶ原配水池へ送水している。

また、大多武水系は、各水源が合流して雄ヶ原配水池へ送水し、ここで坂口水系と配水池内で混合した後、各企業へ自然流下により配水している。

水源は、深井戸9箇所、浅井戸1箇所、河川水源1箇所、湖沼水源1箇所である。

導水管は約8.4km、送水管は約7.9km、配水管は約2.2km、配水池は3池で3,500m³となっており、給水区域は大村ハイテクパーク(約45ha)である。

なお、浄水施設がないため、原水のまま給水しているが、表流水系の水源地は、大雨や高温等の気象条件により水質が悪化する恐れがある場合、取水量を調整し水質を一定に保つようになっている。

また、受水企業の要望により平成18年度から拡張事業に着手しており、平成21年度事業完了時に計画給水量を15,360 m³/日まで増量する予定である。

○事業の特徴

「大村ハイテクパーク」は、九州横断自動車道大村ICまで2 km、上海・ソウルと国際定期便で結ばれている長崎空港まで6 kmという交通アクセスに恵まれたところにある。

また、九州新幹線西九州ルートが着工され、新大村駅(仮称)が大村ICの近くに設置されることから、大村市は長崎県の中軸を担う地域として発展する大きな可能性を有している。

○大村市水道局のホームページアドレス

<http://www.omura-waterworks.jp/>

○給水系統を含む給水区域図

